

第1回
定例会

一般質問

第1回定例会の一般質問は、3月13日、14日の2日間行われ、13名の議員が登壇し、市政全般について質問がされました。

一般質問とは、執行部に対し施策・事業等の現況や将来計画の考え方など、市民に密着した問題をたずため行うものです。各議員の質問と答弁の要旨をお知らせします。

議員名の右側にある2次元コードを読み取ると、録画映像をご視聴いただけます。



佐々木 英徳 議員



孤独・孤立対策について

問 孤独・孤立対策は、アウトリーチがとても重要である。支援者側から積極的に関わりを持つことで、早期介入や予防的な関わりを可能にし、社会的孤立を防ぐことができる。会ってこそ、人はつながり、心を開く。市長の考えを伺う。

答（市長） 多岐にわたる生活問題を抱えている人への支援に向け、県内でも先駆けて重層的支

援体制整備事業という総合的な支援体制を構築し、新しく制定される法律ごとに縦割りの支援体制とならないようにしている。孤独、孤立を感じている人のSOSの受け止めやアウトリーチの手法、官民が連携して地域全体で支える仕組みづくりについては、非常に重要であると認識している。孤独、孤立を感じている人が取り残されることのないよう、また年齢、属性、分野を問わずに支援が行われるよう、さらなる充実を図っていきたい。



認知症問題への対策について

問 認知症高齢者の数は2025年には約700万人に達することが見込まれ、今や認知症は誰もがかかる可能性のある身近な病気である。認知症の方々に対する正しい理解を市民に啓発し、できないことを手助けしてあげる共生社会の実現がとても大切である。市長の考えを伺う。

答（市長） 認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、市民の認知症への理解を深めるために広報、啓発、体験型の養成講座なども含めて今後進めていきたい。